皇學館

学園報 第50号　発行・編集／学校法人皇學館 企画部 TEL:0596-22-6496・8600

●大学　大学院・専攻科・文学部・教育学部・現代日本社会学部
〒516-8555　三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL:0596-22-0201（代表）　FAX:0596-27-1704

●高等学校・中学校　三重県伊勢市楠部町138
［高校］〒516-8577　TEL:0596-22-0205（代表）
［中学］〒516-8588　TEL:0596-23-1398（代表）

■注目記事

1面
平成26年度
皇學館大学
入学式を挙行

2面
大学生テレビ局が開局
図書館にラーニング・コモンズがオープン

3面
新任教職員紹介
新カリキュラムが始動

4・5面
研究旅行・校外学習体験記

6面（高校・中学校）
2団体が県の強化指定に
新入生オリエンテーションを実施 ほか

7面
教職員人事
平成25年度就職状況

8面
柔道部が東海学生大会で初V
野球部が創部初の県リーグ優勝 ほか

## 平成二十六年度　皇學館大学入学式

# 国家有用の人材となるべく 晴れて七六三名が入学

四月三日、記念講堂において平成二十六年度皇學館大学入学式が執り行われた。今年度の新入生は文学部三七五名、教育学部二四四名、現代日本社会学部一〇三名、大学院・専攻科・編入学生四十一名の計七六三名。満開の桜の下、高い志を胸に大学生活をスタートさせた。

### 「世界、地域社会で活躍を」

花曇りの空の下、新入生たちは晴れやかな笑顔で記念講堂へと入場した。午前十時に開始された式典では、開式の辞、国歌斉唱に続き、清水潔学長が令旨を奉読。清水学長はその後の式辞で、「先ほど謹んで奉読した令旨は明治三十三年、時の神宮祭主で皇學館の総裁であった賀陽宮邦憲王が本学の研究と教育の趣旨、目標とするところをお示し下さったものであり、最も的確に『建学の精神』が表明されたものとして大切に継承されてきた」と解説した。

また、多方面で国際化が叫ばれる中、日本の若者が活躍すべき二つの舞台について語った。

一つ目は『世界』。「意欲と能力のある学生が積極的に海外留学し、見聞を広めながら語学力を高め、日本文化を発信する力をつけることが期待される。本学はそんな学生を積極的に支援するプログラムを充実させつつあり、学部学科を問わず諸君も奮って参加してほしい」とエールを送った。

二つ目は『地域社会』。「各人が生まれ育った故郷で、地域の活性化・再生に貢献することが重要。急速な少子高齢化、過疎化、地方の衰退という日本の深刻な国内問題を解決するには若者の力が必要だ。本学は自治体や地域・産業界と連携し、地域に貢献できる人材を育成する」と力強く語った。

最後に清水学長は「本学の学風は、古事記の序文にある『稽古照今』という言葉に象徴される。これは歴史に学び、現在と未来のあり方、進むべき方向を照らそうという意味。その伝統的学風を踏まえ、諸君には潑剌（はつらつ）とした闊達（かったつ）な研鑽（けんさん）を強く期待する」と結び、新入生への祝いの言葉とした。

続いて佐古一洌理事長が「学べば学ぶほど自分が何も知らなかったことに気づく。気づけば気づくほどまた学びたくなる」というアインシュタインの言葉を紹介し、人生の最も多感な四年間で大いに成長してほしいと激励した。

各学部と大学院・専攻科の新入生代表５名が、堂々と宣誓文を読み上げた

### 未来への夢を語る新入生

文学部を代表して宣誓を読み上げた国文学科の豆多真空君は「令旨の話を学長から聞き、本学で日本の文化を学びたいという思いを強くした。神宮のお膝元で日本の源流を探り、日本人の視点から世界の平和を考え、発信できる人間になりたい」と声を弾ませた。教育学部代表の市川諒君は「皇學館大学で多くの人と出会い、自分自身を鍛えたいと考えている。同時に、どうすれば地域社会に貢献できるかをしっかり学び、将来は地域貢献の大切さを子どもたちに伝えられる学校の先生になりたい」と夢を語った。現代日本社会学部代表の中村僚介君は地元・伊勢市の出身。「現在、日本が抱える政治・経済の諸問題に興味があり、解決策を学ぶためにこの学部を選んだ。将来は公務員となり、伊勢のため、そして日本のために働きたい」と力強く語った。

入学式の後、正式参拝の作法に関する指導を受けた新入生たちは保護者、教職員とともに神宮外宮内宮を参拝。入学への感謝の思いを奉告すると同時に、国家有用の人材となるべく鋭意努力する決意を改めて神宮の大前に誓った。

## 平成二十六年度　皇學館中学校・高等学校入学式

# 新生活への期待に胸膨らませ

うららかな春の日差しの下、四月八日に第三十六期皇學館中学校入学式が、翌九日には第五十二回皇學館高等学校入学式がそれぞれ執り行われた。新入生たちは真新しい制服に身を包み、不安と期待が入り混じった表情で式に臨んでいた。

両式典では国歌斉唱に続き賀陽宮邦憲王殿下の令旨を中村貴史学校長が奉読。中村学校長は式辞の中で令旨に込められた精神とともに、本学園の教育方針が神道に則って立てられていることや、〝清明正直〟という言葉に要約される神道が求める人間像について詳しく解説した。

上級生に名札をつけてもらう中学校の新入生

そして、皇學館中学校の新入生四十六名に対しては「毎日の生活を送っていく上で清潔に明るく正しく率直に生きていくことが求められている。そうした一日一日の充実した積み重ねの上に、本日入学してきたここにいる諸君が独自のあり方で個性を創り上げ、大きく飛躍する六年間を送っていってほしい」と激励。式では在校生代表として総務委員長の志村日向さん（三A）が歓迎の言葉を述べ、入学宣誓を新入生代表の曽根伊吹さん（一A）が堂々と読み上げた。

皇學館高等学校の門を新たにくぐった三六三名には鎌倉時代初期の禅僧・道元禅師の「一日をいたづらにせざるべし」、ゲーテの戯曲『ファウスト』に出てくる「時よ止まれ。お前は、あまりに美しい」というセリフを引用しながら、「新入生諸君には未来を保障する美しくて豊かな時間がある。その『あまりに美しい』瞬間瞬間を充実させて、これからを過ごしていってくれることに期待する」との言葉をかけた。これから始まる高校生活を前に一年十組の西川修平君は「三年後の大学入試を意識して日々の授業の予習復習をしっかりしていきたい。また、理科が好きなので科学同好会に入って仲間を作りたい」と抱負を語った。一年八組の中屋つぶらさんは「中学校の先生になるという夢に近づけるよう、苦手な教科を得意にしたい」と話し、自身の長所である明るさと元気の良さを発揮して、楽しい高校生活を送りたいと期待に胸を膨らませていた。

玉砂利を踏みしめ、清々しい表情で神域を進む新高校生

## 倉田山春秋

四月の初め頃だったか、三号館前でトゥルルルと音がする。何かと思いながら周りの木を探してみると、楠（くすのき）の枯れ枝に直径四センチメートルほどの穴が開いていた。反対側には開けかけて途中でやめたようなくぼみもあった▼気になって二階の窓から観察していると、きつつきの仲間のコゲラがやって来た。穴はコゲラの巣だった。羽に白黒の市松模様が見える。木の幹に垂直に止まり、辺りをうかがった後、穴の中へ入って行った▼以来、様子を観察していたが、あまり姿を見せることもなく、学期が始まって学生たちの声も賑やかなので巣を放擲（ほうてき）してしまったものかと思っていた▼ところが、連休明けになってしきりに姿を見せるようになった。木の近くへ行ってみると、なんとコゲラが巣穴いっぱいに身を乗り出すようにして顔を出している。こちらを恐れる様子もなく、きょとんとした愛らしい姿だ▼それから四五日してコゲラの姿は見えなくなった。きっと巣立ち直前だったのだろう▼かつて、倉田山には鹿やキジがいたという。きつつきもひなを育む自然豊かな環境の中で、学生、生徒は今日も勉学に励んでいる。

# 大学生テレビ局が開局

９号館１階の編集スタジオにて五十嵐さん(右)の指導を受ける岡君（左）と２作目を担当した島田冴香さん

学生ならではの視点で地域の魅力を掘り起こし、発信する「皇學館大学大学生テレビ局」が文部科学省の支援を受け開局。地元ケーブルテレビ局アイティービー（株式会社ＺＴＶ伊勢放送局）のプロデューサーによる指導のもと毎月一本の番組を制作し、放映している。学生とメディア企業がタッグを組み、本格的な番組制作に取り組むのは全国的にも珍しい試みだ。

## 〝知る〟から始まる地域活性

四月七日、皇學館大学大学生テレビ局による記念すべき一作目「御頭神事の伝統」が地元ケーブルテレビ・アイティービーで放映された。約八百年の歴史を誇り、国の重要無形民俗文化財にも指定されている伊勢市御園町高向地区の伝統行事を取り上げたもので、地元民の祭にかける思いに迫った十五分間のドキュメンタリーだ。ディレクターとして番組を手掛けた現代日本社会学科三年の岡剛史君は「高向に引っ越してきて初めて御頭神事の存在を知った。地区の人が熱心に準備する姿を目の当たりにして、地域や人々にとってこの祭がどういう意味を持つのか興味があった」と制作に至った動機を語る。

取材では三十人以上にインタビューを行い、撮影は二十時間超に及んだ。岡君は「神事を通じて人と人とのつながりが保たれ、深まっていると感じた」と話し、「取材されたことで故郷の魅力を見直す機会にもなったようだ」と嬉しそうに語る。そして、「地域が活性化するためにはその良さをまず知ってもらうことが大事」と言い、地域活性における情報発信の重要性を熱く語った。

## 発信力の高い人材を育成

局員である二十二名の学生を指導するアイティービーの五十嵐正道制作担当部長は「何を見せたいか、自分の目線で地域の魅力を掘り起こすことが大切」と話し、学生には番組づくりを通じて感性や表現力を磨いてもらい、地域における情報発信の担い手として成長してほしいと期待をかける。担当の新田均現代日本社会学科教授は「発信力はもちろんのこと、取材の申込みやインタビューを依頼する過程で社会人としての基礎力も身に付く」と、就活に向けた教育プログラムとしても効果が高いと評価。同事業が全学生が受講できるインターンシップ科目（一単位）であることから、積極的な受講を呼び掛ける。

なお、五月には二作目の「融合の美」が、六月には三作目の「ジャズと私と河崎と」が放送された。これらの番組はYouTubeでも配信されており、今後は英訳して世界に向け発信する予定だ。

# 図書館にラーニング・コモンズがオープン

学生が主体的、協働的に学修できる知的コミュニケーション空間「ラーニング・コモンズ」が附属図書館閲覧室一・二階に開設された。

用途別に「ブッククラウンジ」「プレゼンテーション」「フレキシブル」の三スペースと、学修情報収集コーナー・特設コーナーに分かれており、ＰＣや貸出用iPadなど計四十一台の検索ツールも完備。貸出用ノートＰＣとiPadについては無線ＬＡＮを利用してインターネットに接続できる。

机は人数に応じて自在に組み合わせられるデザイン

## 多様な学修スタイルに対応

週に二度ほどフレキシブルスペースを利用するというコミュニケーション学科一年の中浜茉也子さんは「会話はできるが食堂よりも静か。資料にもすぐあたれるので便利」と話す。ゼミの授業でプレゼンテーションスペースを時々使うという国史学科四年の寺田貴彦君は「授業中、先生に調べておくよう言われたことをその場でネット検索できるのでタイムロスが少ない。静かに勉強したい時は閲覧室三階に行ったりと、その時の状況や気分にあわせて学べる点が気に入っている」と満足そうに話す。

三月二十五日のオープン以来利用者は増え、多い日は四百名を超えることも。館内スタッフにはレファレンスや、論文に関する相談などもでき、環境や設備が充実したことで学生の学修意欲向上につながっている。

# 皇居勤労奉仕で自覚新たに

今年で十七年目を迎える本学学生有志による皇居勤労奉仕。三月十日から十三日までの日程で行われた今回は五十二名が参加し、皇學館大学の学生として、また、日本国民としての思いを新たにしたようだ。以下に団を率いた高里智佳さんの感想を掲げる。

## 尊い御言葉を賜りて

第十七代団長・高里智佳

「遠い所から、どうもありがとう」。

これは皇居勤労奉仕の際に、皇后陛下より賜った御言葉です。

この皇居勤労奉仕は戦後の占領下に始まり、一般国民が天皇皇后両陛下からの御会釈、御下問を賜ることのできる貴重な機会です。そして私たちも両陛下より御言葉を賜り、団長である私が御下問へお答えいたしました。

本学のことをご存じであらせられる天皇陛下は、「神職になられる方が多いのですか」「遷宮の時は何か行事に参加されましたか」と、大学や伊勢に関することをお聞きになられました。これは、奉仕団ごとに内容を変えてお聞きになられる両陛下の御心遣いの表れです。そして、皇后陛下から冒頭の労いの御言葉を賜り、天皇陛下の「お元気で」との御言葉で御下問は締めくくられました。

また、皇太子殿下よりも赤坂御用地にて御会釈、御下問を賜りました。「神職になられる方が多いのですか」「大学では何を研究されているのですか」といった、皇太子殿下もまた我が大学、そして学生である私たちに沿ったことをお聞きくださりました。

これらは本学に通う学生皆への御言葉であり、「勉学に励んでください」という意味が含まれていると思います。ですから学生はそれにお応えしなければなりません。さらに、私たち〝皇學館大学〟の学生は伊勢の地で学ぶ、皇室と縁深い大学に通う学生ですから、そのことを自覚し、誇りに思い、学生は今自分にできることを積み重ね、公のために尽くさなければなりません。それが我が大学の学生の役割であり、日本国民の役目だと実感した皇居勤労奉仕でした。

## 話す力・聞く力を磨くチャンス

# 求ム！ラジオパーソナリティ

「話すこと、情報を発信することに興味がある人にとって、キャンパスキューブのパーソナリティはとても良い勉強のチャンス。我こそはと思う人は、ぜひ後任に立候補してほしい」。そう語るのは、約１年前から学生パーソナリティとして活躍している現代日本社会学部４年の内田崇史君だ。ＦＭ三重で放送されている「キャンパスキューブ」（毎週金曜日午後８時半～）は、三重県内４大学の学生が登場し、学生の視点からさまざまな話題を語り合う番組。大学のイベントレポートから地域の情報、社会問題まで、幅広いジャンルを取り上げる。本学からは５名の学生が交代で出演しているが、授業や就職活動のため時間を割くことが難しくなってきており、現在、後を継いでくれる仲間を募集中だ。「ＦＭ三重のリスナーは数万人。それだけ多くの人を前に話すという経験が、就職活動での大きな自信につながりました」と内田君。興味のある人は企画部まで！

# グローバル人材育成のため「櫻井奨学金」創設

去る平成二十五年十二月二十五日、故櫻井勝之進元理事長のご令室、櫻井フミ様より、グローバル人材育成のための奨学資金にと、一千万円を本学にご寄付賜りました。

この奨学資金は、現在の国際交流地域のみならず、アジア太平洋地域への学生派遣に対する支援を中心に考えていただきたいとのご意思を踏まえ、新たに規程を整備し、アジア太平洋地域諸国を中心とする学生の海外短期留学等学生教育におけるグローバル化推進に資するための「櫻井奨学金」を創設、平成二十六年度より奨学金の支給やグローバル化推進事業への資金充当に活用させていただくこととなりました。

このたびの、櫻井フミ様からのご芳志に対しまして、深甚なる感謝を申し上げます。

# 新任教職員紹介

この春から新たに加わった教職員の方々を紹介します。
❶出身地・経歴等 ❷趣味・特技等 ❸座右の銘 ❹一言メッセージ

文学部教授
**芳賀 康朗**

❶福島県◆名古屋大学大学院文学研究科修了。前人間環境大学教授
❷ヒトを含む動物の行動観察
❸とくになし
❹新しい環境で仕事をさせていただくことに感謝しながら頑張りたいと思います。

文学部准教授
**堀内 淳一**

❶東京都◆東京大学大学院人文社会系研究科修了。前学習院大学東洋文化研究所助教
❷海外文学、サイクリング、現代美術、古書蒐集、速読
❸努力をした者がすべて報われるとは限らない。しかし、成功した者は皆すべからく努力している
❹今のような時代だからこそ、広く世界に目を開いてもらえる教育を目指します。

文学部准教授
**クリストファー・メイヨー**

❶アメリカ◆プリンストン大学東洋学部博士号取得。前アイオワ州グリネル大学歴史学部助教授
❷読書、書道、ヨガ
❸子曰、知之者不如好之者、好之者不如樂之者
❹学生が日本の歴史文化を世界へ発信できるよう手助けしたい。

教育学部教授
**渡邉 賢二**

❶三重県◆名古屋大学大学院教育発達科学研究科修了。前鈴鹿医療科学大学教授
❷旅行、スポーツ観戦、ギター演奏、珠算
❸感謝する心を持つこと
❹人に感謝することを忘れずに、これからも人と関わっていきたい。

教育開発センター助教
**濵畑 静香**

❶三重県◆名古屋外国語大学大学院修了。前培材大学校日本学科助教授
❷小旅行
❸無駄な事は一つもない
❹どうぞよろしくお願いします。

事務局総務部書記補
**竹内 愛**

❶三重県◆愛知県立大学卒
❷ショッピング、ソフトボール、ピアノ
❸継続は力なり
❹貢献できる人材となれるよう、一生懸命頑張ります。

附属図書館事務部事務室事務嘱託
**井上 真美**

❶三重県
❷温泉めぐり
❸和顔施
❹附属図書館でお待ちしています。ぜひお声をおかけください。

皇學館中学校教諭
**田中 孝昌**

❶三重県◆近畿大学理工学部卒。元公立中学校教員
❷卓球、ゴルフ、スポーツ観戦
❸初志貫徹
❹生徒たちと共に、明るく楽しく分かりやすい授業を目指して頑張ります。

皇學館高等学校常勤講師
**大西 正紀**

❶三重県◆皇學館大学コミュニケーション学科卒
❷音楽鑑賞
❸笑って生きる
❹初めての教職ですが、精一杯頑張りたいと思います。

皇學館高等学校常勤講師
**河邑 圭太**

❶三重県◆名古屋大学卒
❷釣り
❸臥薪嘗胆
❹生徒の人生を少しでも良いものにできるよう、尽力致します。

皇學館高等学校養護助教諭
**中村 浩菜**

❶三重県◆名古屋学芸大学ヒューマンケア学部卒
❷ピアノ
❸一期一会
❹出会いを大切に、一生懸命頑張ります。

皇學館中学校常勤講師
**仁木 孝幸**

❶龍谷大学文学部哲学科教育学専攻・京都教育大学大学院連合教職実践研究科卒
❷バスケットボール、食べ歩き
❸一期一会
❹一日一日を大切に職務に務めてまいりたいと思います。

皇學館中学校ALT
**ダンフォード・ゴードン・ロス**

❶アメリカ・テネシー州
❷柔道、パソコン、写真
❸A New Day,A New Challenge

## キャリア・コンパス・プログラムに基づく
# 新カリキュラムが始動

学園報四十八号に既報の通り、社会のさまざまな分野で活躍する中核的職業人の育成に向け、本学独自の新制度「キャリア・コンパス・プログラム」が本年四月よりスタート。全学部で、これまでにない新しい取り組みが数多く行われている。その中でも今号は「地域連携」「地域貢献」をテーマに、ユニークな教育を展開する二つのカリキュラムを紹介する。

### 『ビジネス実践論〈グローバル化と地域の経済社会〉』
（全学科共通科目）

株式会社三重銀行・株式会社三重銀総研との連携協定に基づいて実施される産学協働講座。「三重県の経済産業の特徴と動向」「東海圏の経済成長要因と今後の成長に向けた一考察」など、身近な地域経済の動きを取り上げ、地域経済が世界や日本を取り巻く大きな時代潮流からどのように影響を受けながら動いているかを学ぶ。この授業を通して経済社会に関するニュースなどの基本的な事項を理解し、経済統計やデータによって事象を分析し、自分なりの意見を述べられる力を養う。

三重銀総研のご協力により開かれた産学協働講座

### 『公共政策論』
（現代日本社会学科専門科目）

公務員は、自らの利益を度外視して地域住民・国民のために働く仕事であり、地域や国の利益を最大限に増大させるための事業を起こす創造力と行動力が求められる。この授業では、多気町役場職員として三十二年間勤務してきた岸川政之講師が、実際の地域行政の現場でどのような課題に直面し、どのように意思決定を行ってきたかを、長年の経験の中から実践的に語る。加えて、その実例の検証・議論を通して創造力と問題解決力を修得し、「地域の活性化に貢献できる公務員」の育成をめざす。

## 学食がリニューアル！

２階食堂にてお気に入りの和風パスタを食べる大西さん

この春、学食のメニューが一新！品数が増え、利用しやすくなったと学生の評判も上々だ。

二階食堂には中華料理やパスタといったこれまでなかったメニューが登場。ほぼ毎日利用するという国文学科四年の大西那奈さんは「好物のパスタが加わったので嬉しい。四種類もあり、量も満足」と話す。男子学生に人気なのはボリュームたっぷりの中華系。「中華ランチ」は日替わりとなっており、チャーハンや麻婆飯、天津飯など四種のご飯メニューが二百八十円とお得に味わえる。

一階食堂では「ヘルシーランチ」をはじめ栄養バランスのとれた日替わりランチ三種を用意。喫茶室にはワッフルなどのスイーツやドリンクメニューが新たに増え、営業時間も十七時まで延長されるなどさらに便利になった。ますます賑やかになりそうだ。

作り立てのワッフルは“もちふわ”！

## 平成２５年度　研究旅行日程一覧

### 大　学

| 学科 | 引率教員 | 日程 | 目的地・方面 |
|---|---|---|---|
| **国内** | | | |
| 神道 | 加茂　正典 | 9/17(火)～9/20(金) | 鹿児島・霧島・宮崎・高千穂・博多 |
| | 河野　　訓 | 8/30(金)～9/3(火) | 沖縄本島 |
| | 菅野　覚明 | 9/15(日)～9/18(水) | 竹駒神社・恐山・遠野 |
| | 白山芳太郎 | 9/17(火)～9/20(金) | 宮古島・沖縄本島 |
| | 松本　　丘 | 9/12(木)～9/15(日) | 山陰方面 |
| | 木村　徳宏 | 2/28(金)～3/3(月) | 九州・中国方面 |
| 国文 | 大島　信生 | 9/12(木)～9/15(日) | 山陰地方 |
| | 齋藤　　平 | 9/11(水)～9/14(土) | 岩手県 |
| | 髙倉　一紀 | 3/4(火)～3/7(金) | 熊野古道・熊野三山 |
| | 深津　睦夫 | 9/11(水)～9/14(土) | 中国地方・四国地方 |
| | 中川　照将 | 9/11(水)～9/13(金) | 京都 |
| | 三品　理絵 | 9/12(木)～9/15(日) | 東京・鎌倉 |
| | 岡野　裕行 | 9/11(水)～9/15(日) | 東京方面 |
| 国史 | 上野　秀治 | 9/12(木)～9/15(日) | 会津・米沢 |
| | 岡田　　登 | 9/11(水)～9/15(日) | 南九州 |
| | 岡野　友彦 | 9/12(木)～9/15(日) | 東北地方 |
| | 松浦　光修 | 9/11(水)～9/14(土) | 鹿児島・下関・萩 |
| | 多田　實道 | 9/16(月)～9/20(金) | 信越・関東方面 |
| コミ | 外山　秀一 | 9/11(水)～9/14(土) | 北海道 |
| 教育 | 中條　敦仁 | 3/4(火)～3/7(金) | 東北地方(岩手県・宮城県) |
| | 中松　　豊 | 3/4(火)～3/11(火) | 東京・小笠原諸島(父島・母島) |
| | 山本　智子 | 3/4(火)～3/7(金) | 横浜・東京 |
| | 渡邊　　毅 | 3/4(火)～3/7(金) | 宮古島・沖縄 |
| 現日 | 鵜沼　憲晴 | 3/4(火)～3/7(金) | 津・四日市・名張・鳥羽・志摩 |
| | 建部久美子 | 9/17(火)～9/20(金) | 北東北/仙台・気仙沼・五所川原・つがる市 |
| | 筒井　琢磨 | 9/12(木)～9/14(土) | 北海道(函館・札幌) |
| | 富永　　健 | 9/11(水)～9/14(土) | 東京 |
| | 新田　　均 | 9/11(水)～9/14(土) | 東京 |
| | 橋本　雅之 | 9/11(水)～9/14(土) | 東京 |
| | 岩崎　正彌 | | |
| | 山路　克文 | 2/25(火)～2/28(金) | 中国地方 |
| | 山中　　優 | 9/12(木)～9/15(日) | 東京 |
| | 板井　正斉 | 3/9(日)～3/12(水) | 直島・豊島・小豆島・しまなみ海道 |
| | 藤井　恭子 | 9/12(木)～9/14(土) | 東京 |
| **海外** | | | |
| 国文 | 上小倉一志 | 9/10(火)～9/13(金) | 中国(泰山・曲阜) |
| | 松下　道信 | | |
| 国史 | 田浦　雅徳 | 9/9(月)～9/13(金) | 台湾(台北・台南) |
| | 谷口　裕信 | | |
| コミ | 池田　久代 | 9/9(月)～9/13(金) | マカオ・深圳・香港 |
| | 張　　磊 | | |
| | 児玉　玲子 | 9/9(月)～9/13(金) | マカオ・深圳・香港 |
| | 山田やす子 | | |
| | 豊住　　誠 | 9/9(月)～9/14(土) | シンガポール |
| | 川村　一代 | | |
| | 森　　真一 | 9/2(月)～9/6(金) | グアム |
| | 前田　至剛 | | |
| 教育 | 小木曽一之 | 3/5(水)～3/10(月) | マレーシア(コタキナバル) |
| | 片山　靖富 | | |
| | 加藤茂外次 | 3/6(木)～3/10(月) | パラオ |
| | 田口　鉄久 | | |
| | 叶　　俊文 | 3/9(日)～3/13(木) | グアム |
| | 中村　哲夫 | | |
| | 元塚　敏彦 | | |
| | 小孫　康平 | 3/4(火)～3/8(土) | バリ島 |
| | 有門　秀記 | | |
| | 豊住　　誠 | 3/5(水)～3/8(土) | シンガポール |
| | 檜垣　博子 | | |
| | 吉田　直樹 | | |
| | 吉田　明弘 | | |
| | 錦　かよ子 | 3/3(月)～3/8(土) | スペイン(バルセロナ) |
| | 杉野　裕子 | | |
| | 深草　正博 | 3/4(火)～3/9(日) | 台湾(花蓮・高雄・台南・台北) |
| | 野々垣明子 | | |
| 現日 | 笠原　正嗣 | 9/9(月)～9/13(金) | グアム |
| | 関根　　薫 | | |
| | 守本　友美 | 3/4(火)～3/8(土) | グアム |
| | 榎本　悠孝 | | |

### 大　学　院

| 専攻 | 引率教員 | 日程 | 目的地・方面 |
|---|---|---|---|
| 神道 | 松本　　丘 | 9/1(日)～9/3(火) | 東海・関東地方 |
| 国文 | 毛利　正守 | 9/10(火)～9/13(金) | 宮崎 |
| 国史 | 上野　秀治 | 8/19(月)～8/22(木) | 日光・東京・鎌倉 |
| 教育 | 市川　千秋 | 3/12(水)～3/14(金) | 長崎・福岡 |

# 専攻科◆参拝見学

## ● 神職としての心構えを学ぶ

**神道学専攻　猪股弘樹**

私たち神道学専攻科は５月 17･18 日の両日、担任の白山芳太郎教授・神職養成部の石井世津子先生の引率により、世界遺産である熊野三山を参拝見学した。両日とも好天に恵まれ、17 日は熊野速玉大社・熊野那智大社にて正式参拝、ほかに上倉神社、那智大瀧、青岸渡寺を見学。18 日は熊野本宮大社にて正式参拝、ほかに補陀洛山寺・本宮大社の旧社地である大斎原・花窟神社・始神峠を見学した。

今回の参拝見学を通じ、各神社の御由緒や御祭神などについて、現任神職の方から丁寧な解説を賜り、我々が目指す神職の実体や、神社の実像をより立体的に理解できるよい機会となった。古くから連綿と伝えられてきた伝統、社殿、宝物などを保存したり、復元したりする苦労話なども伺うことができ、神職として必要な心構えや努力すべき点などをつぶさに学ぶことができた。

熊野那智大社にて記念撮影

# 高等学校

4月 23 日に遠足が実施され、晴天のもと１年生は京都・太秦映画村、２年生は志摩スペイン村、３年生はナガシマスパーランドで楽しいひとときを過ごした。

## ● 遠足を機に信頼し合う学年へ

**1年　細川実玖**

この遠足で行った太秦映画村は修学旅行で訪れる人も多い観光地だが、私は一度も行ったことがなかった。そして、初めて行ってみて、ハードなスケジュールの中でも案外楽しく過ごせたと思う。

また、この行事は同じ学年同士親睦を深められたので、これを機にさらに信頼し合える学年へと成長できたら嬉しいと思う。

遠足で賑わう映画村

## ● 遊園地マジックで積極的に

**2年　中川初保**

私は皇學館高校に入ってから部活などに所属していなかったため、新しい友人がなかなかできずに悩んでいた。しかし今回の遠足では学校から離れ開放された気分になったのか、列の前後にいた子たちと話したり一緒にアトラクションに乗ったりと、普段ならとても勇気のいることが簡単にできた。思えばそれは、人を楽しい気持ちにさせる遊園地の持つ力のおかげかもしれない。その力を身を持って感じたうえで、遊園地は生徒同士や先生との交流を深めることができる遠足にぴったりの場所だと思った。

これを機に学校でも人間関係において前向きに行動できればいいなと思う。

抜けるような青空に向かってジャンプ！

## ● 楽しい時間を共有できた

**3年　島田陽和**

４月 23 日、遠足が実施され、３年生はナガシマスパーランドに行った。

早いもので高校生活も２年が過ぎ、学年揃っての校外活動はこれが最後と考えると、感慨深いものがあった。そして、「ナガシマ」といえば絶叫系。絶叫系が苦手な私は楽しみというより緊張の方が勝っていたが、みんなと「スチールドラゴン」や「ホワイトサイクロン」に乗ったことで少し苦手意識を克服することができた。帰るときは名残惜しく、みんなと楽しい時間をもっと共有したいと思った。

いよいよ受験の年となり、自分との闘いが始まる。楽しい行事が次々と終わっていきみんなで過ごす時間も少なくなってきたが、友だちとの時間を大切にし、残りの高校生活を過ごしていきたい。

ブレザーを着ているのが暑いほど、好天に恵まれた

# 中学校

総合フィールドワークの一環として行われた朝熊山登山。３学年がＡ組・Ｂ組の縦割り２チームに分かれ、頂上をめざした。

## ● 支えがあったからこそ登れた

**1年　山下麻衣**

正直、朝熊山を軽く考えていたと思う。

最初は、朝熊山といってもそんなに高くないだろうと思っていた。しかし、いざ登ってみるとすごく辛く、途中でやめたいとさえ思った。そんな時、頼りになったのは先輩、先生、班のみんなだ。「大丈夫？」とか「あともうちょっと！」とか、励ましの言葉をたくさんかけてもらった。たぶん、私一人では登れなかったと思う。たくさんの人の支えがあったからこそ登ることができた。

来年は２年生になっている。後輩もできるので、今度は支えてあげる立場になって登りたい。

仲間とおいしいお弁当を頬張り、ハイチーズ！

## ● 失敗も含めいい思い出

**2年　大森春奈**

登山も２回目。後輩たちと登るということ以外は一緒だと思ったが、だいぶ違い、何もかも新鮮で楽しかった。登っている時、今年は１年生を助ける側だった。私は疲れている１年生に声をかけてあげるくらいしかできなかったが、その子は元気を出してくれたようで嬉しかった。頂上では１年生や先輩とお弁当を食べたり、下山中につい気がゆるんで転んでしまったり……。失敗も含めすべてがいい思い出だ。

去年は初めてということもあり不安が大きかったが、今年は余裕が生まれたのかより一層楽しかった。来年も笑顔で登りたいと思う。

## ● 仲間の良さを実感

**3年　横山侑未**

今回のフィールドワークを通して感じたことがある。それは一人ひとりが声をかけ合い、励まし合っていたということだ。大変そうにしている人がいたら「大丈夫？」「がんばろう」など優しい声をかけ合っている姿を見て、いい仲間だと思った。お弁当の時間は下級生とも仲良くなることができた。３年生として下級生を引っぱっていけるかすごく不安だったが、周りのみんなと助け合って登り切ることができた。よい先輩として活動できたかわからないが、班のメンバーたちと一緒にいい思い出を作ることができて嬉しかった。これからもみんなと協力し合っていきたいと改めて思った。

学びから成長へ

# 研究旅行 校外学習 体験記

事前学習で理解を深め、五感を使って現地で学び、事後に生かす――研究旅行・校外学習は単なるイベントではなく、体験を通して心身ともに成長できる貴重な機会だ。実際に何を感じ何を得たのか、学生・生徒が語った。

## 大学◆研究旅行

### ● 神職から見た意見、思いに触れる

神道学科 **小嶌理裕**（木村ゼミ）

私たち木村ゼミは、神道学・祭祀学・日本文化学・博物館学等に関する識見を深めることを目的に、九州・中国地方の名社と博物館を巡った。太宰府天満宮では、霊廟として菅原道真公の人格を称えてお祀りしているのに対し、京都の北野天満宮は左遷された道真公の祟りを鎮めるためにお祀りされていると知り、納得させられた。九州国立博物館では、今回の目玉である「国宝大神社展」を見学。貴重な御神宝など神道美術の数々を直に学ぶことができた。厳島神社では、災害に対して柔軟な構造となっている社殿について、神職さんが老子の逸話や物理的な理論を用いて分かりやすく解説してくださった。また、特別のご配慮により国宝の平家納経も拝見させていただき、清盛直筆の部分を間近で拝観した時の興奮は今でも忘れることができない。およそ60年に一度の御遷宮「平成の大遷宮」が行われた出雲大社では、形あるものを守る形のない心、その両方が大切で、伝統を守る難しさと重要性を改めて感じた。美保神社では宮司様直々に、祈願するだけではなく具体的行為・主体的行為が必要と教えていただいた。

太宰府天満宮「飛梅」の前にて

この研究旅行は内容が非常に充実しており、皆で食事を楽しむなど、思い出もたくさんできた。また、各神社における歴史と現代社会における状況と課題といった、宮司様や神職さんの立場からみた様々な思いや意見を伺うことができ、貴重な学びの場となった。

### ● 今回学んだことは一生の宝

教育学科 **内海瑞樹**（中條ゼミ）

研究旅行では東北に足を運んだ。東北では宮沢賢治に関わる施設や遠野ふるさと村、松島巡りなど様々な場所を訪れた。先生やゼミ生仲間の知らない一面も知る事ができた３泊４日だった。

中尊寺金色堂の前で記念撮影

東北は震災があった地であり、まだその爪痕は至るところで見受けられた。しかし、現地の方々はどの方もあたたかく、研究旅行は充実したものとなった。

今回私たちが学んだ事は「人と人、人と物、人と環境のつながり」だ。東北には私たちの知らない環境があり、物があり、あたたかい人がいた。テレビや新聞などで知り得た震災時の様子は断片的なものでしかない。当たり前のことが当たり前にでき、明日がちゃんと来る幸せ。また、物があり、幸せに暮らせる環境がある事。これから私たちにできる事は、今を大切にする事だと肌で感じた。このゼミ研究旅行で学んだ事は一生の宝として大事にしていきたい。

### ● 実り多き岩手の旅

国文学科 **鏡島里菜**（齋藤ゼミ）

研究旅行は岩手県へ行った。小岩井農場、かっぱ淵、中尊寺……。その行程の中で言語調査を２回行った。２回目の花巻の調査では、私たちの班は老人ホームの入口近くにいた女性に話しかけた。協力してくれることになり、勤め先の老人ホームで調査を行った。調査後、帰り際に方言カルタを貰うなどおもてなしを受け、岩手の人の優しさにも触れることができた。

私が一番印象に残っているのは、東日本大震災の被災地である釜石市鵜住居（うのすまい）を訪れたことだ。被災した防災センターのガイドの方の話によると、２階の避難ホールにたくさんの住民が避難しに来たが、津波が天井付近まで押し寄せ多くが亡くなったという。「ここに逃げれば助かる！」と考えた住人がたくさんいたと知り、酷く残念で悔やまれる。

初めて訪れた岩手県は楽しく、言語調査では学ぶことが多かった。また旅行に行ってみたい。

釜石市で被災地ガイドから話を聞く

### ● 収獲多い現地での研究

国史学科 **谷垣元彦**（多田ゼミ）

私たち多田ゼミは関東を中心とした４泊５日の旅行で、諏訪大社や春日山城、日光東照宮、鶴岡八幡宮など各県の有名な史跡や神社、寺院を巡った。私たちのゼミでは鎌倉時代の史料（鎌倉年代記裏書）を読み解くことを主として研究しており、この研究旅行で１日をかけて歩き回った鎌倉市内では、その史料に深く関わりのある場所に足を運び、史料で得た知識と実際の史跡を照らし合わせ、史料の信憑性について改めて確認することができた。写真や史料で研究するよりも、やはり現地に足を運び説明を聞くことで、その当時の情景がよりイメージがしやすく、私たちにとって今までにない国史の研究として大きな収穫となった。一個人では、このような日程で旅行し、研究を行うのはとても難しい。今年研究旅行に行く学生のみなさんは、この貴重な時間を無駄にすることなく、少しでも多くの収穫を得て今後のゼミ活動や、個人の研究に生かしてほしい。

春日山城跡にて撮影

### ● 防災や支援の重要性を学ぶ

現代日本社会学科 **濱口実央**（建部ゼミ）

建部ゼミでは研究旅行として宮城県と青森県を訪問した。研究旅行の目的と学んだことは、大きく分けて２つある。１つは東日本大震災の被災地の現状理解である。現地の方から話を聴くことで、復興支援の現状や今後の課題を学んだ。また気仙沼市社会福祉協議会を訪問し、震災発生時の状況や復興支援活動の内容などの話を聴き、復興支援の現状や新たなニーズが発見されたことによる課題などについて学んだ。加えて、津波対策を目的とする防潮堤が必要かどうかに関する住民ニーズを理解することができた。２つ目に、障がい者施設や特別支援学級を訪問し、活動内容や運営方針などを学ぶことである。とくに自分らしさと人同士の関係を重視していることを学び、人同士が支え合い共存することを改めて考えるきっかけとなった。研究旅行を通して、災害への備えや支援の重要性などについて理解する貴重な体験をすることができたと考える。

ＪＲ気仙沼駅にて

### ● 異文化を肌で感じる

コミュニケーション学科 **井上真帆**（山田ゼミ）

研究旅行の行き先はマカオ、深圳、香港。初めての海外旅行にワクワクしていた私だが、行きの機内で英語を使ってうまく会話できなかったのが残念だった。

香港国際空港で入国手続き後、高速船でマカオへ。船からの景色は晴れているのに霧がかかっているようで、空気が悪そうに見えた。２日目のマカオ世界遺産巡りは歴史が感じられる建物ばかりで、中でも印象に残ったのが聖ドミニコ教会だ。３日目の夕方、今回の旅行で一番行きたかった香港に向かい、待ちに待った北京ダックを味わう。夕食後は世界３大夜景の１つ、ビクトリアピークへ。綺麗すぎて言葉がでなかった分、写真をたくさん撮った。４日目は終日自由行動で香港ディズニーランドを満喫。チケットの安さ、待ち時間の短さは私たち学生にとっては嬉しいことだが、シンデレラ城がないのは物足りなかった。それでもディズニーランドは夢の国だった。

聖ポール天主堂跡の前で記念写真

異文化を肌で感じることができ、友達同士助け合うことで思いやりも芽生え、有意義な時間を過ごせた研究旅行だった。帰った時の母のホッとした顔は今でも忘れられない。

## 大学院◆研究旅行

### ● 記紀神話を肌で感じる旅

文学研究科国文学専攻 **桐谷美帆**

宮崎に着いて最初に訪れた江田神社は、祝詞にも登場する阿波岐原（あわきがはら）に鎮座する神社で、敷地内には、黄泉の国から戻ったイザナギノミコトが禊祓をし、天照大御神ら三貴子が生まれたとされる禊池がある。私達が行った時にはちょうど睡蓮が出迎えてくれた。

禊祓から始まったこの旅は、記紀神話を肌で感じる旅になったと思う。青島神社では海幸山幸の神話を立体で表現した日向神話館を見学。鵜戸神宮では亀石に運玉を投げ入れて願い事をしたり、お乳岩に触れたりした。各神社では、宮司様から貴重なお話を拝聴し、霧島神宮、霧島神宮古宮跡、霧島東神社では、天逆鉾を遥拝した。

同じ日本とはいえ、九州と三重では気候風土も違う。これらの体験は、ただ文献に触れているだけではわからないことばかりだ。実際にその舞台となった土地へ赴いたことで得るものは多いと感じた。

霧島神宮にて記念写真

## 皇高 NEWS

# 二団体が県の強化指定に

### 銃剣道部・バドミントン部

平成三十三年に三重県で開催が予定されている「第七十六回国民体育大会」を見据え、競技スポーツの中核を担う運動部・チームを指定し、選手の強化活動を支援しようと県が取り組んでいる強化指定事業。平成二十六年度は六十五団体が指定を受け、本校からは銃剣道部（男子）、バドミントン部（女子）の二部が選ばれた。

銃剣道部の創部は昭和五十六年。以来、東海地区代表として七度国体に出場し、上位入賞を果たしている。全国高校生大会では団体五位が三回、個人一位が一回・三位三回・五位四回、全国能美大会では団体三位三回、個人一位一回等の成績を収め、平成二十五年には日本武道協議会より武道優良団体として表彰された。

小中学生から銃剣道を始める他県と違い、高校生になってから始める三重県において、これらの実績は注目に値するべきものといえよう。同部においては卒業生と練習したり、自衛隊久居駐屯地での強化合宿では成年選手の指導を受けるなど、格上を相手にした鍛錬が成果の原動力となっている。

自衛隊員と練習に励む銃剣道部員。ハイレベルな内容の練習で技術力・精神力を養う

先発メンバーの５人（左から西澤玲奈さん、児玉知枝さん、川添麻依子さん、中川祐希さん、谷水亜里紗さん）

バドミントン部女子は富田康子先生、槙野貴行コーチのもと、十五名の部員が活動中。昨年度は全国高校総体学校対抗の部に三年連続三回目の出場、全国高校選抜学校対抗の部には二年ぶり二回目の出場を果たした。

同部の特徴はチームワークの良さ。時には辛い練習も、こまめな声掛けを実践し、互いに励まし合いながら部員一丸となって乗り越えてきた。現在は全国大会での一勝、そして、インターハイでのベスト8進出に向け、日々練習を重ねている。

県から強化指定を受けたことでその使命と責任を自覚し、練習にも一層気合が入る両部の部員たち。今後の活躍に注目だ。

# 緊張と期待に満ちた対面式

校庭の桜が早くも葉桜になりつつある四月十日、対面式が行われた。緊張と期待に満ちた顔の新入生と、落ち着いた面持ちの中に頼もしさが窺える二・三年生……合わせて千人を超える生徒が一堂に会し、皇學館高校の歴史に新たな一ページが加えられる日となった。

新入生を代表して挨拶したのは、入学式においても宣誓という大役を担った森幸葉さんだ。森さんは挨拶の中で「清明正直の教えを守り、目標に向かって自分にできることを精一杯していきたい」と語り、早くも皇學館生としての自覚が芽生えた様子を見せていた。

一方、三年生で校友会総務委員長を務める城貴斗君は「桜が緑に染まる頃には新入生も高校生活に慣れ、紅く染まる頃には先輩とともに鮮やかな思い出を描いていることだろう。一人ひとりの夢が美しく咲くことを願っている」と詩情あふれる表現で新入生を励まし、上級生らしい風格を漂わせていた。

歓迎の挨拶をする城貴斗総務委員長

# 保護者会総会で交流深める

右／合同懇親会で談笑の時間を楽しむ参加者たち
左／総会で議事に臨む佐古理事長ほか役員の方々

五月十日、新緑の風薫る午後、平成二十六年度の保護者会総会、後援会総会、中学・高校合同懇親会が中学校セミナーホールを会場として開催され、多数の保護者に参加いただいた。高校は午前中の公開授業に続いての実施となった。

各総会とも佐古一洌理事長、中村貴史校長からの挨拶のあと、平成二十五年度事業・決算報告から審議が進められた。司会は中学が小島玲子役員、高校は中川幸洋総務部長が担当。役員改選後、新役員が紹介され、平成二十六年度の事業計画・予算案の審議が行われた。議案はすべて賛成多数により可決・承認された。

またパワーポイントによる資料映像をもとに、中高生徒たちの日々の活躍ぶりが小林誠治教務部長、多田真二教頭より保護者に紹介された。総会の最後には服部円美、多田各教頭から中高の新任教職員が紹介され、この春から教壇に立って以降の思いなど一言ずつ挨拶があった。

続いて皇學館大学倉陵会館に会場を移し、保護者・教職員間の懇談、交流の機会として恒例の合同懇親会の場が設けられた。

高校保護者会長の廣耕太郎氏による挨拶後、中学保護者会長の竹内久仁子氏が乾杯の音頭をとると、会場はすぐに和やかな雰囲気に包まれた。参加者は飲み物を手にテーブルに並んだ料理を味わいつつ、和気藹々として談笑の時間を楽しんだ。最後は高校前保護者会長の外村晃一氏の三本締めで会を閉じた。

## 皇中 NEWS

# 新入生オリエンテーションを実施

四月九日、十日、十一日と三日間にわたり新入生オリエンテーションが行われた。一日目は二、三年生と新入生との初めての顔合せ（対面式）。在校生代表生徒からは「わからないことがあれば何でも聞いてください」と先輩らしい言葉が掛けられ、新入生代表は「先輩方とともにさまざまなことに取り組んでいきたい。よろしくお願いします」と挨拶した。続いて十四日にはクラブ紹介が行われ、各クラブとも普段の活動を説明したり、勧誘を兼ねオリジナルのパフォーマンスを繰り広げるなど賑やかな時間となった。

学年主任の吉田康人先生の話にじっと耳を傾ける新入生

## まずは〝笑顔で挨拶〟を目標に

一年　江藤朋華

三日間のオリエンテーションを通して皇學館中学生として学ばなければならないことやいろいろな決まりなどについて先生に話をしていただき、ルールを守り、規則正しい生活をしていこうと改めて思いました。これから中学校の授業が始まるので、頑張って勉強し、部活動にも積極的に取り組みたいと思います。

これからの目標は、先生や先輩たちと会ったときに大きな声で、笑顔で挨拶をすることです。それから勉強でみんなに置いていかれないように予習・復習を忘れず、授業も真剣に受け、将来の自分の夢のために一生懸命取り組みたいと思います。この一年間、友達をたくさん作り、クラスのみんなと仲良くすることから始め、楽しみながらよい思い出をたくさん作っていきたいと思います。

# 新入生歓迎ドッヂボール大会を開催

四月二十三日、新入生歓迎ドッヂボール大会が体育館で開催された。男女別に学年の枠を超えた六つのチームによる総当たり戦。試合中、各チームでは二、三年生が取ったボールを一年生に譲ったり、励ましの声をかける場面が見られるなど、いい交流の場となった。

## 先輩の優しさを見習いたい

一年　小林涼花

四月二十三日、私たち一年生を歓迎してドッヂボール大会が行われました。私は正直言って、ドッヂボールはあまり好きではありませんでした。というのも、小学校の時に参加したドッヂボール大会は男女混合チームだったので力の差があったり、ボールを取ったり投げたりすることができなかったからです。ですが、今回は男女別々で力の差もあまりなく、ボールも何度か投げることができてよかったです。

そして、何より先輩たちが一年生を気づかって、ボールを渡したりしてくれたおかげでとても楽しめました。先輩たちの優しさが嬉しかったし、その姿に尊敬と憧れの念を抱きました。私も自然と後輩を気づかい、楽しませてあげられる優しい先輩になれるよう頑張っていきたいと思います。

ドッヂボール大会を通して上級生・下級生たちが交流

# 教職員人事

平成二十六年四月一日付

〔　〕内は旧職名

## 大学

### 採用

文学部教授　芳賀　康朗
文学部准教授　堀内　淳一
文学部准教授（クリストファー・メイヨー）
※五月十二日付
教育学部教授　渡邉　賢二
教育開発センター助教　濵畑　静香
事務局総務部書記補　竹内　愛
附属図書館事務部事務室事務嘱託　井上　真美

### 再任用

文学部教授（特別教授）　櫻井　治男
教育学部教授（特命教授）　檜垣　博子
教育学部教授（特命教授）　田口　鉄久

### 任用更新

文学部教授（特別教授）　半田　美永
教育学部教授（特別教授）　市川　千秋
大学院文学研究科教授（特命教授）　毛利　正守
文学部教授（特命教授）　安江　和宣
教育学部教授（特命教授）　栗原　輝雄
現代日本社会学部教授（特命教授）　宮川　泰夫
教育学部准教授（特命准教授）　長尾　陽子
教育学部助教　佐藤　武尊

### 昇格

研究開発推進センター准教授　大平　和典〔文学部助教〕
事務局学生支援部主任　大谷　千帆〔事務局学生支援部書記〕

### 配置換

研究開発推進センター准教授　大平　和典〔文学部助教〕
附属図書館事務部事務室係長　山際　稔〔事務局学生支援部課長補佐〕
附属図書館事務部事務室事務長　坂本　尚泰〔学校事務部事務長〕

### 兼務

法人本部総務部書記補　竹内　愛

## 高校・中学校

### 採用

皇學館中学校教諭　田中　孝昌
皇學館高等学校常勤講師　大西　正紀
皇學館高等学校常勤講師　河邑　圭太
皇學館高等学校養護助教諭　中村　浩菜
皇學館中学校常勤講師　仁木　孝幸
皇學館中学校ALT　ダンフォード・ゴードン・ロス
学校事務部学校事務室（中学校）事務嘱託　小椋　猛
学校事務部学校事務室事務嘱託　奥野　奈緒
学校事務部学校事務室事務嘱託　鈴木　千浩

### 昇格

皇學館高等学校教諭　杉田　貴大〔皇學館高等学校常勤講師〕

### 平成二十六年度 特別招聘教授

茶道裏千家淡交会　参事　淺沼　博氏
財団法人合気会理事長　植芝　守央氏
合気道道主
弓馬術礼法小笠原流　三十一世宗家　小笠原清忠氏
東海旅客鉄道株式会社　代表取締役名誉会長　葛西　敬之氏
東海旅客鉄道株式会社相談役　須田　寛氏
鉄道情報システム常務監査役　田尾　憲男氏
雅楽師・元宮内庁式部職楽部楽師　東儀　秀樹氏
京都産業大学名誉教授
モラロジー研究所教授　所　功氏

# 平成二十五年度 就職率は九六・七％

平成二十六年三月卒業の六七九名について、就職希望者五四八名のうち就職決定者は五三〇名と、就職率は九六・七％になることがわかった（※表A参照）。文部科学省が五月十六日付で発表した「平成二十五年度大学等卒業者の就職状況調査（四月一日現在）」によると大学全体の就職率は九四・四％、私立大学は九三・七％となっており、本学学生の健闘ぶりがうかがえる。以下に業種別の詳細を掲載する。

### ●神社関係

神職課程履修者のうち、神社関係奉職希望者（大学院・専攻科含む）七十八名の就職率は百％となった。男子は六十二名全員神職、女子は神職八名・巫女三名・事務職五名の採用。

### ●教職関係

一二三名（講師七十九名含む）が教員（小・中・高）となり、五十二名（公立十五・私立二十七・臨時十を含む）が幼稚園・保育園に就職した。

### ●公務員関係

三重県庁二名（行政職一・福祉職一）、松阪市役所一名、奈良市役所一名、大台町役場一名、自衛隊四名（幹部候補生一・一般曹候補生三）、刑務官一名、警察十名（三重県警八・愛知県警一・静岡県警一）、消防三名（鳥羽市一・岩倉市一・各務原市一）の計二十三名が正規採用となった。ほかに伊勢市（事務）、多気町（司書）など一年以上の臨時採用者が十四名おり、計三十七名が就職した。

### ●一般企業

政府政策による金融緩和や円高、株価高騰などの景気回復傾向から、大手企業だけでなく中小企業においても積極的な採用が見受けられ、本学においても五月中旬から相次いで内々定が出始め二三〇名が決定した。業界別では文系大学の全国的な傾向と同様、卸売業・小売業、サービス業が中心となっている。

■表A　平成25年度卒業生就職状況　平成26年5月1日現在

| 学科 | | 就職希望者 | 就職者 | 就職率：就職者／就職希望者 |
|---|---|---|---|---|
| 神道 | 男 | 40 | 39 | 97.5% |
| | 女 | 20 | 20 | 100.0% |
| | 計 | 60 | 59 | 98.3% |
| 国文 | 男 | 29 | 23 | 79.3% |
| | 女 | 38 | 37 | 97.4% |
| | 計 | 67 | 60 | 89.6% |
| 国史 | 男 | 47 | 46 | 97.9% |
| | 女 | 30 | 29 | 96.7% |
| | 計 | 77 | 75 | 97.4% |
| コミュニケーション | 男 | 38 | 35 | 92.1% |
| | 女 | 27 | 27 | 100.0% |
| | 計 | 65 | 62 | 95.4% |
| 社会福祉 ※平成21年度をもって募集停止 | 男 | 1 | 1 | 100.0% |
| | 女 | 1 | 1 | 100.0% |
| | 計 | 2 | 2 | 100.0% |
| 教育 | 男 | 84 | 83 | 98.8% |
| | 女 | 119 | 119 | 100.0% |
| | 計 | 203 | 202 | 99.5% |
| 現代日本社会 | 男 | 58 | 55 | 94.8% |
| | 女 | 16 | 15 | 93.8% |
| | 計 | 74 | 70 | 94.6% |
| 合計 | 男 | 297 | 282 | 94.9% |
| | 女 | 251 | 248 | 98.8% |
| | 計 | 548 | 530 | 96.7% |

平成25年度卒業生 分野別就職者
平成26年5月1日現在

| | | |
|---|---|---|
| ❶ | 企業・団体 | 230 |
| ❷ | 教員（小中高） | 123※1 |
| ❸ | 神社 | 56 |
| ❹ | 教員（幼）・保育士 | 52※2 |
| ❺ | 公務員 | 37 |
| ❻ | 福祉 | 32 |

※1：うち79名は講師　※2：うち10名は臨時

## 就職・採用活動時期が後ろ倒しに

なお、現在の三年生（平成二十七年度卒業・修了予定者）の就職活動から広報活動の開始時期が三年生の三月（現在十二月）に、採用選考活動時期が四年生の八月（現在四月）に後ろ倒しとなる。短期決戦になることで今以上に志望業界や企業の絞り込みが必要となり、さらにはエントリーシートや筆記試験などの重要度が増すことも予想される。

本学では独自の就職支援事業である「キャリア・コンパス・プログラム」の導入をはじめとするきめ細かい就職指導や地元企業との連携により、学生の就職活動を全面的にサポート。また、「保護者のための就活サポートBOOK（平成26）」を作成するなど昨今の就職状況に関する情報をこまめに発信・共有し、保護者の方と一丸となって学生を支えていく。

「保護者のための就活サポートBOOK（平成26）」は本学HPからデジタルパンフレットが閲覧できる

## 平成二十六年度 萼の会 総会及び役員会報告

### 萼の会役員会

五月十七日、午後三時より伊勢シティホテルにおいて萼の会役員会が開催され、全国からお集まりいただいた役員五十五名と本学教職員十六名で総会に諮るべき議事が審議された。

### 萼の会総会

五月十八日、本学記念講堂において萼の会総会が開催された。文学部一〇三名、教育学部一三三名、現代日本社会学部三十二名及び大学教職員七十二名の出席のもと、平成二十五年度の行事事業報告・決算と平成二十六年度の行事事業計画（案）・予算（案）などが審議され、盛会のうちに閉会となった。なお、新役員については左記の方々が選任された。

■平成二十六年度　萼の会役員名簿（敬称略）

| 役職名 | 氏名 | 学生名 | 学科 | 学年 |
|---|---|---|---|---|
| 会長 | 小倉　光晴 | 美子 | 教育 | 4 |
| 副会長 | 中村　高久 | 詩帆 | 国文 | 4 |
| 副会長 | 松本　真人 | 大樹 | 国文 | 3 |
| 副会長 | 小山　明利 | 菜那 | 現日 | 3 |
| 会計監査 | 長嶋　高之 | 沙都子 | 教育 | 4 |
| 会計監査 | 加藤　博雅 | 愛子 | 神道 | 3 |

# スーツの着こなし・メークアップ講座を開催

四月二十三日、青山商事株式会社のご協力により三・四年生を対象にした「スーツの着こなし・メークアップ講座」が開催され、一三七名の学生が参加した。

スーツの着こなし講座では同社の講師がおしゃれと身だしなみの違いや自分にあったスーツの選び方などについて、男女別に具体例を交えわかりやすく解説。スーツを着こなすうえでのポイントなど、就職活動に役立つ話がなされた。

メークアップ講座では花王株式会社ビューティケア事業ユニットの講師が好印象を得るメーク方法について実際に化粧品を使いながら詳しく説明。両講座とも予想の参加人数を大きく上回る盛況で、受講した学生からは「とても参考になった」「スーツを試着するときに確認するポイントなど勉強になった」「面接時のマナーなどについても聞けてよかった」などの感想が寄せられた。

当日は本学卒業生で現在「洋服の青山」に勤務の藤川祐子さん、谷口仁美さんが講師のサポート役として参加

# 東海大会等で快挙続々

「人間力」を高めるべく部活動にも力を注いでいる本学には、男女ともに活躍できるクラブが充実している。日頃の鍛錬が実を結び、この春、とくにめざましい成果を上げたクラブを紹介する。

## 柔道部　東海学生柔道で初V

創部四十六年目の快挙だ。五月十八日に愛知県武道館で行われた東海学生柔道優勝大会男子一部リーグにおいて柔道部が初優勝。六月二十八日・二十九日に日本武道館で開かれる第六十三回全日本学生柔道優勝大会への出場を決めた。

団体（七人制）で臨んだ今回、強豪の愛知学院大と戦った決勝では四対二で勝利した。重大な局面となったのは二対一で迎えた五人目の「三将戦」。負ければ同点となるところを、花田健悟君（教育学科二年）が自身より三十七キロ重い一三五キロの選手を相手に背負い投げで一本勝。最後の大将戦も伊藤光明君（コミュニケーション学科二年）が裏投げで一本勝し、悲願の初Vに導いた。

部を率いる主将の高橋章人君（国文学科四年）は「部員の気持ちをより高みに持っていけるよう気を配った」と、技術面のみならず精神面でもサポート。就任三年目となる佐藤武尊監督（教育学科助教）は「強豪大学を破っての優勝だったので嬉しさもひとしお」と喜びを語りつつ、「しかし我々がめざす『柔道』には程遠いのが現状。部員には勝負や命がけのやり取りを通して人間力を磨いてもらいながら、理想とする姿に向け一歩ずつ着実に歩を進めたい」と気を引き締めた。

優勝旗を手にし誇らしげな柔道部員たち

## 硬式野球部　創部初の県リーグ優勝

三重学生野球リーグの平成二十六年度春季リーグ最終戦が五月十日、県営北勢中央公園野球場で行われ、野球部が昭和三十七年の創部以来、春秋通じ初となるリーグ優勝を果たした。

優勝決定戦を兼ねた四日市大との第三戦に一致団結して臨んだ野球部。ピッチャーの大井将吾君（現代日本社会学科四年）を中心とした堅い守りで四日市大を三対一で下し、東海大会への切符を手にした。そして、五月二十四日に岐阜・中津川公園野球場で開かれた東海大会に三重県代表として出場。全国大会進出をめざし各県リーグを制した静岡大（静岡県）、中京学院大（岐阜県）と対戦したものの二戦二敗で三位となり、夢の全国大会出場には至らなかった。

主将でキャッチャーの高橋涼介君（現代日本社会学科四年）は「負けたこと以上に、自分たちらしくない試合をしてしまったことが悔しい」と無念さを吐露。一方で、専用グラウンドがない中ここまで勝ち進んだことに「くじけることなく今まで頑張ってきてよかった。あとは後輩に托したい」と胸を張る。森本進監督も、「四年生が最後まで諦めず戦った姿は下級生の心に残ったはず」と思いやる。

今年の三月、市営倉田山公園野球場の全面改修が終わり、球場を使ったより実践的な練習ができるようになった。全国大会出場という目標に向け、飛躍の年になることを期待したい。

三重県リーグで初優勝を果たし、胴上げされる森本監督

## 剣道部　鹿井美奈さんが東海私学で三位

東海私立大学剣道選手権大会が三月二日に愛知県中村スポーツセンターで開催され、個人戦の学年別一年生の部で鹿井美奈さん（教育学科・現二年）が三位に入賞した。同大会で入賞したのは十四年ぶりの快挙だ。

愛知、岐阜、三重、静岡四県の私立大学の一～三年生が参加した同大会には本学から男子十五名、女子六名が出場。九月に行なわれる全日本学生・全日本女子学生剣道優勝大会東海予選に向け、今後も個々の技術、チームワークを強化し十七年ぶりの全日本学生・全日本女子学生剣道優勝大会出場をめざす。

## 空手部　秋田大輝君が全日本大会出場へ

東海学生空手道選手権大会が五月十一日に愛知県武道館で行われ、空手道部の秋田大輝君（教育学科二年）が男子個人組手でベスト十六に進出。七月六日に大阪市中央体育館で開かれる全日本空手道選手権大会の出場権を獲得した。

「昨年の全日本空手道選手権では一回戦で敗退したので、雪辱を果たすためにも今大会では優勝し、学生チャンピオンをめざすつもりで挑みたい」と意気込みを語る秋田君。彼の活躍が発奮材料となり、部全体のレベルアップにつながることが期待される。

## イベント情報（6～8月）

**6月**

- **28 土　神道博物館教養講座**　佐川記念神道博物館講義室
  学芸員が語る三重の文化と魅力　「進撃の桑名市博物館～村正・石取祭・伊勢一の鳥居～」　杉本竜（桑名市博物館　学芸員）
- **28 土　皇學館大学共催講座**　近鉄文化サロン阿倍野
  「神道と仏教」－神社仏閣に見る神仏習合と神仏分離－
  三井寺（園城寺）における神仏習合と神仏分離　河野訓（文学部教授）

**7月**

- **5 土　月例文化講座**　431教室
  神様に奉る御食事　－鈴鹿家所蔵「大嘗祭神饌図」－
  加茂正典（文学部教授）
- **5 土　皇學館大学共催講座**　近鉄文化サロン阿倍野
  特別公開講座　文学に観る伊勢と熊野　半田美永（文学部教授）
- **6 日　皇學館大学人文學會大会**　431教室
  研究発表
  記念講演「掛幅縁起絵の世界」
  佐野みどり（学習院大学文学部哲学科教授）ほか
- **12 土　皇學館大学共催講座**　近鉄文化サロン阿倍野
  『古事記』を読む（下巻）「允恭天皇」　白山芳太郎（文学部教授）
- **19 土　古文書講座**　212教室
  「中世文書を読む！」－伊勢山田八日市場をめぐる古文書Ⅱ－
  千枝大志（研究開発推進センター助教・学芸員）
- **19 土　皇學館大学共催講座**　近鉄文化サロン阿倍野
  特別公開講座　宮崎アニメから神道を考える
  －ゆるやかにつながる神々－　板井正斉（現代日本社会学部准教授）
- **24 木　第31回現代日本塾**　621教室
  「障がい者の支援に携わって」－働くこと、暮らすこと、そして生きること－
  佐藤勝則（「ゼノ」ホームそよかぜ施設長）
- **26 土　神道研究所公開学術シンポジウム**　佐川記念神道博物館講義室
  古代の祭祀と伊勢神宮
  登壇者：
  ①岡田莊司（國學院大學神道文化学部教授）
  ②藤森馨　（国士舘大学文学部教授）
  ③斎藤英喜（佛教大学歴史学部教授）
  ④加茂正典（文学部教授・研究開発推進センター共同研究員）
  ⑤岡田登　（文学部教授・研究開発推進センター共同研究員）
  ⑥山口剛史（研究開発推進センター助教）
- **26 土　皇學館大学共催講座**　近鉄文化サロン阿倍野
  「神道と仏教」－神社仏閣に見る神仏習合と神仏分離－
  清水寺と地主神社　河野訓（文学部教授）

**8月**

- **2 土　皇學館大学共催講座**　近鉄文化サロン阿倍野
  特別公開講座　万葉の歌人
  －高橋虫麻呂（たかはしのむしまろ）－　大島信生（文学部教授）
- **2 土　皇學館大学ふるさと講座**　名張市武道交流館いきいき
  「秘ストリア名張　－歴史の道と川の流れに－」
  櫻井治男（文学部教授）
- **8 金　みえアカデミックセミナー2014**　三重県文化会館レセプションルーム
  「失われつつある日本文化の地域性と多様性」　外山秀一（文学部教授）
- **9 土　皇學館大学共催講座**　近鉄文化サロン阿倍野
  『古事記』を読む（下巻）「安康天皇」　白山芳太郎（文学部教授）
- **23 土　皇學館大学共催講座**　近鉄文化サロン阿倍野
  「神道と仏教」－神社仏閣に見る神仏習合と神仏分離－
  善光寺における神仏習合と神仏分離　河野訓（文学部教授）

- 各講座の詳細につきましては、本学ホームページにてご確認いただきますようお願い致します。
- 共催講座（近鉄文化サロン阿倍野）のみ、有料です。お問い合わせは近鉄文化サロン阿倍野（0120-106-718）へお願い致します。
- 神道博物館教養講座は、事前の申込みが必要になります（先着順）。お問い合わせは（0596-22-6471）へお願い致します。
- 史料編纂所公開講座・古文書講座は、事前の申込みが必要になります（先着順・参加費無料）。お問い合わせは(0596-22-6462)へお願い致します。
- ふるさと講座は事前申込みが必要になります（定員100名・参加費無料）。お問い合わせ（申込み）は名張市教育委員会　文化生涯学習室（0595-63-7892）へお願い致します。
- その他、お問い合わせは皇學館大学地域連携推進室（0596-22-8635）へお願い致します。

## 編集後記

柔道部が東海学生柔道優勝大会男子一部リーグで初優勝。硬式野球部も東海地区大学野球春季三重県リーグで初優勝を果たすなど、大学スポーツの各部で快挙が続いています。また高校においても、銃剣道部、バドミントン部が平成三十三年開催予定の三重国体に向け、県の強化指定運動部・チームに選ばれました。学生・生徒はもちろん、指導にあたられた部長・監督の先生方の喜びもひとしおのことでしょう。このような学生・生徒のめざましい活躍は、三重県のスポーツ振興に寄与し、皇學館在学生および館友の皆様の誇りとなります。今後ますますの健闘を祈念申し上げます。〔企画部〕

Find us on Facebook & LINE@
開設
皇學館大学はFacebookとLINEを利用しています。
登録して皇學館大学と交流を深めましょう。
詳細についてはホームページにてご確認ください。
https://www.facebook.com/kogakkans

オープンキャンパス2014
Kogakkan University
参加無料　予約不要
「学び」体験DAY
場所　皇學館大学
時間　11：00～16：00
7/13日　8/17日
皇學館大学の学びの雰囲気を体験できる一日。
「学校」見学DAY　7月12日（土）13:00～16:00
「大学祭」同時開催DAY　11月上旬 11:00～16:00
入試説明会　11月29日（土）13:00～16:00
未来へつなぐ日本のこころ
皇學館大学